

図書館運営の評価と指標

1、(図書館)評価とは

- ・評価「善悪・美醜・優劣などの価値を判じ定めること」広辞苑第四版
- ・図書館評価「図書館全般の活動ならびに運営の実態について点検ならびに測定し、その存在意義、機能の発揮状況、目標の達成具合などについて判断すること」
- ・行政評価とは、「行政機関が主体となって、ある統一した目的や視点のもとに行政活動を評価し、その成果を行政運営の改善につなげていくこと、更にそれを制度化して行政活動の中にシステムとして組み込んで実施すること」島田晴雄著『行政評価』

2、図書館評価の意義

ア、背景

<公共図書館>

厳しい財政事情と「お役所仕事」への批判 (行政評価の時代)

なぜお役所仕事が生れるのか

- ・ 巨大な組織・事業の全貌をつかむことの難しさ
- ・ 成果を表現することの難しさ
- ・ 多様なものに対する統一的な価値基準形成の難しさ
- ・ 変えることの困難(建前の世界 論理的否認になる)

<大学図書館>

平成3年 大学設置基準の大綱化

自己点検自己評価自己改革 生き残り

イ、外圧から主体的な取り組みへ

- ・ 自らの成果・業績を示す
- ・ 現状、問題点を科学的に把握し、合理的な改善方向を探る

3、図書館評価の要素(プロセス)

現状の把握 価値判断 (改善計画)

図書館経営の中の位置付け(マネジメントサイクル)

<現状把握の手法>

ア、統計

- ・ 現状把握の基本的ツール

見ているだけでは認識、把握できない・言葉にする、数字にする。

全てを認識することはできない 何を認識したいか

- ・ 数字だけでわかったと思わない事。実態を知っている事
- ・ 何を数えているか正確に知る
- ・ 内訳を見る
- ・ 単位(基準数)当たりの数を見る

イ、アンケート(利用者、利用対象者)

ウ、チェックリスト 例: 私大図協自己点検・評価ガイドライン 1999

エ、実験・テスト・実測 例: ISO 図書館パフォーマンス指標

書庫からの資料出納所要時間(中央値)

レファレンス正答率

オ、専門家の意見 例: 都立中央図書館選書調査会

<有効な手法であるための条件>

- ・ 内容があること
- ・ 信頼がおけること(同一の条件で同一の結果ができる)
- ・ 測ろうとする対象を測っていること
- ・ 合理的な労力で入手できること
- ・ 比較が可能なこと

<価値判断>

前提 その図書館にとって何を価値とするか Mission 及び Goal の確認

具体的な物差し 以前との比較 経年変化

他図書館との比較 図書館の使命やおかれている条件を十分考慮し、
比較可能かどうか、その差は 何を意味するか
慎重に考えること

目標との比較 では、目標は立てているか?

基準との比較

4、図書館パフォーマンス指標(ISO11620)

5、測定・評価の例

文教大学越谷図書館における利用者ガイダンス評価

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kyouken/Bull8/toda.html>

文教大学湘南図書館資料利用可能性調査

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/lib/slib/questionnaire.htm>

番外 ランキングの例 アメリカ HAPLR インデックス

<http://www.haplr-index.com/>

文教大学越谷図書館ガイダンス評価の例

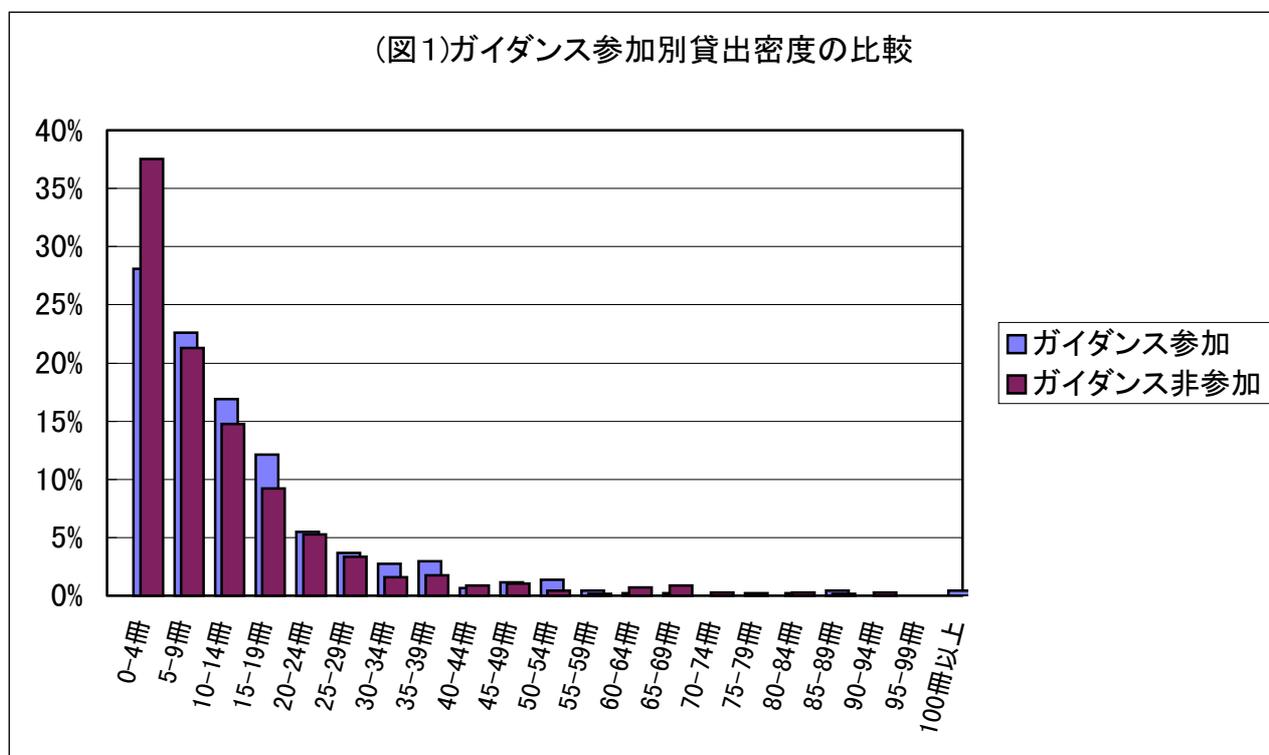
(表2) 新入生ガイダンス実施状況

	新入生数	ガイダンス実施クラス	在籍数	参加者数	参加率
98年度	1,123人	15クラス	438人	414人	36.9%
99年度	1,089人	38クラス	1,089人	998人	91.6%

(表4) 98年度ガイダンス参加別年間貸出実績(年間)

ガイダンス参加	人数	貸出人数	利用率	貸出冊数	平均	中央値
有	438人	396人	90.4%	5,983冊	13.7冊	9冊
無	685人	618人	90.2%	8,140冊	11.9冊	7冊

(図1)ガイダンス参加別貸出密度の比較



(表6) ガイダンスを受けたことがあるか

	有る	無い	覚えていない・未回答	計
1年生	254(92.7%)	15(5.5%)	5(1.8%)	274
2年生	178(62.2%)	89(31.1%)	19(6.6%)	286
3年生	118(61.8%)	60(31.4%)	13(6.8%)	191
4年生	62(49.6%)	45(36.0%)	18(14.4%)	125
不明	12(60.0%)	7(35.0%)	1(5.0%)	20
全体	624(69.6%)	216(24.1%)	56(6.3%)	896

(表8) ガイダンス参加別特定資料探索状況

ガイダンス参加	特定資料探索？	人数	比率	探した冊数	発見した冊数	未発見冊数	発見率
有り	探した	224人	35.9%	423冊	279冊	140冊	66.0%
	探さない	390人	62.5%	-	-	-	
	未回答	10人	1.6%	-	-	-	
	計	624人		423冊	279冊	140冊	
無し	探した	85人	39.4%	154冊	106冊	51冊	68.8%
	探さない	126人	58.3%	-	-	-	
	未回答	5人	2.3%	-	-	-	
	計	216人		154冊	106冊	51冊	
覚えていない	探した	16人	32.7%	37冊	31冊	6冊	83.8%
	探さない	33人	67.3%	-	-	-	
	計	49人		37冊	31冊	6冊	
未回答	探した	1人	14.3%	1冊	1冊	0冊	100.0%
	探さない	5人	71.4%	-	-	-	
	未回答	1人	14.3%	-	-	-	
	計	7人		1冊	1冊	0冊	

注) 比率は同じガイダンス経験区分中のそれぞれの人数の比率

(表9) 棚に有ったのに見逃した資料の割合

ガイダンス参加	未発見冊数	未発見資料名明示	うち在棚	在棚(見逃し)率
有り	140冊	54冊	26冊	48.1%
無し	51冊	10冊	7冊	70.0%
覚えていない	6冊	5冊	4冊	80.0%

(表10) 探した人中資料を見つけたツールの割合

	資料を見つけた方法・ツール			
	書架	カード目録	OPAC	職員
ガイダンス参加者	50.9%	1.3%	22.3%	0.4%
ガイダンス非参加者	56.5%	1.2%	17.6%	1.2%

(表11) 各種ツールの利用状況

		OPAC	インターネット	資料相談
ガイダンス参加者	利用する	57.2%	28.8%	18.3%
	利用しない	39.9%	67.3%	78.0%
ガイダンス非参加者	利用する	50.9%	23.1%	19.0%
	利用しない	44.9%	71.3%	75.5%